

# エンジン刈払機保証書 (大切に保管してください)

- この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
 弊社では、本製品を末永くご使用いただくため、保証業務を行っております。
1. 本製品は、厳密な品質管理と検査を経てお届けしたのですが、万一保証期間内に、注意ラベル、取扱説明書の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、商品に本保証書を添えて、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
  2. 保証期間内でも次のような場合は、有料修理になります。
    - ①ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障、又は損傷。
    - ②火災、地震、風水害、雷、その他天災地変、塩害、公害や異常電圧による故障、又は損傷。
    - ③一般消耗部品の損耗交換時の部品代、及び修理代。
    - ④保管状態が適当でない場合の故障、又は損傷。
    - ⑤本保証書のご提示がない場合。
    - ⑥本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を弊社の承認を得ることなく修正した場合。
  3. 本保証書は、再発行いたしませんので、大切に保管してください。
  4. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

※本保証書に記載された内容のもとにおいて、無料修理を行うことをお約束するもので、本保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。  
 ※保証期間経過後の修理等についてのご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。  
 ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動および、その後の安全活動のために、ご利用させていただく事がございますのでご了承ください。

型 式 (MODEL)	<b>AK-2610W</b>			
製造番号				
保証期間	お買い上げ	年	月	日より
	1年間 (但し、消耗品は除く)			
お 客 様				
フリガナ				
お名前				
ご住所 〒				
TEL				
取 扱 販 売 店				
店名/住所/電話				
修理メモ				



本社 / 〒381-8530 長野市北長池1443-2  
 TEL: 026(244)1317  
 URL: <http://www.asaba-mfg.com>

# ASABA

## エンジン刈払機

型式: AK-2610W

### 取扱説明書

#### はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
 この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い上げの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

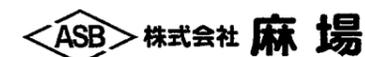
#### <目次>

安全のために必ずお守りください	①
1 仕様	②
2 梱包部品一覧	③
3 各部の名称	④
4 作業の準備	⑤
4-1 ハンドルの組み立て	⑤
4-2 スロットルワイヤの接続	⑥
4-3 飛散防護カバーの取り付け	⑥
4-4 刈刃の取り付け	⑦
4-5 肩掛けバンドの調整	⑧
4-6 燃料の準備	⑧
5 エンジンの始動・停止	⑨
5-1 冷えたエンジンの始動	⑨
5-2 暖まっているエンジンの始動	⑨
5-3 スロットルレバーの使い方	⑩
5-4 エンジンの停止	⑩
6 刈払作業	⑪
7 点検・整備	⑬
8 保管	⑬
9 故障と対策	⑬
保証書 (本紙裏表紙)	



危険

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。  
 取扱説明書の指示内容を守ってください。  
 守られなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。



〒381-8530 長野県長野市北長池1443-2  
 TEL: 026 (244) 1317  
 URL: <http://www.asaba-mfg.com>

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や、機械に貼られた⚠の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。また、⚠の表示のあるラベルが汚損したりはがれた場合は、お買い上げの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や、機械に貼られた⚠の表示のあるラベルでは、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

<b>⚠ 危険</b>	●その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
<b>⚠ 警告</b>	●その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
<b>⚠ 注意</b>	●その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

尚、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については、取扱説明書、機械に貼られたラベルともに、**重要**の表示を用いています。

## 安全のために必ずお守りください

<b>危険</b>	<b>【作業の前に】</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。</li> <li>燃料補給時は、火気に充分注意してください。</li> <li>高温部に燃料がかからないように補給してください。</li> <li>燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れしないでください。</li> <li>燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。</li> <li>燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。</li> </ul> </li> <li>燃料を充填後、本機を傾けると燃料がもれる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。</li> <li>燃料を充填後、自動車などで運搬する場合は、燃料がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。</li> </ul>

<b>注意</b>	<b>【作業の前に】</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>次に該当する方は、この製品を使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>酒気をおびた者</li> <li>過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な作業ができない者</li> <li>妊娠中の者</li> <li>満15歳未満の者</li> <li>負傷中の者</li> </ul> </li> <li>作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと等各部に異常がないことを確認してください。</li> <li>安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。</li> <li>この製品を他人に貸与または、譲渡する場合は、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。</li> </ul>

<b>警告</b>	<b>【製品の使用環境・作業環境】</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>転落や滑落、誤った操作などにより事故や重傷を負う恐れがありますので、使用時は次の項目を必ず守ってください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所では使用しないでください。</li> <li>夜間や視界が悪い場所では使用しないでください。</li> <li>緩やかな傾斜地では、等高線方向に作業をしてください。</li> </ul> </li> <li>作業者の健康に悪影響を及ぼす恐れがありますので、気温が-5℃~+40℃の範囲内で作業をしてください。</li> </ul>

## エンジン運転中停止する

現象	原因	対策
運転中、急停止する	ピストンの焼き付き	※
	スパークプラグの短絡	スパークプラグを清掃、電極間隔の調整をする
エンジン回転が次第に下がり、やがて停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
エンジン回転が急激に上がり停止する	燃料内異物混入	新しい燃料と交換する
	燃料切れ、または不足	燃料を給油する

## エンジン停止が困難

現象	原因	対策
エンジンストップボタンを押してもエンジンが停止しない	エンジンストップボタンのアース不良	配線の点検、交換をする
	スパークプラグ先端部の赤熱	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	ディーゼリング	※

※印の不具合対策に関しては、お買い求めの販売店にご相談ください。  
その他、不明な点は、販売店にご相談ください。

## 9 故障と対策

エンジン始動不能、または、始動困難

現象	原因	対策
キャブレタまでガソリンが来ていない	燃料タンクに燃料がない	燃料を給油する
	プライミングしていない	プライミングポンプを4~5回押す
	燃料チューブの詰まり	燃料チューブの清掃、曲りを矯正する
	燃料タンクタンクキャップの通気穴の詰まり	燃料タンクキャップを清掃する
スパークプラグに火花が飛ばない	スパークプラグの不良	スパークプラグを新品と交換する
	スパークプラグが汚れている	スパークプラグをワイヤブラシ等で清掃する
	スパークプラグキャップ不良、または、スパークプラグコード断線	※
	点火装置不良	※
爆発の兆候がない	チョークの開きすぎ	チョークを閉じて始動する
	キャブレタの詰まり、または調整不良	※
スパークプラグが濡れている	チョークの閉じ過ぎ	スパークプラグを乾燥させ、チョーク全開で再始動する
その他	キャブレタのオーバーフロー	※
	マフラの詰まり	マフラを清掃する
	燃料、オイルの不適切	規定の燃料、オイルを使用する

エンジンの回転不調、または、出力不足

現象	原因	対策
エンジンが異常に加熱する	燃料不適切	規定の燃料を使用する
	冷却不足	冷却風通路、シリンダフィンを清掃する
	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	燃焼室にカーボンが堆積している	※
スパークプラグに飛び火花が弱い	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
吸、排気系の不具合	エアクリーナが汚れている	エアクリーナを清掃する
	エアクリーナが濡れている	エアクリーナを乾燥させるか、交換をする
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	マフラの詰まり	マフラを清掃する



### 【保護具の着用】

- 作業をするときは、必ず下記の保護具を着用してください。
- 保護帽（ヘルメット）・耳覆い（イヤーマフ）や耳栓
- 保護メガネ（ゴーグル）・フェースシールド・防振手袋
- 滑りにくい丈夫な作業靴（先しん入り）・作業衣（長袖・長ズボン）
- 必要に応じて下記の保護具を着用してください。
- 防塵マスク・防蜂網

## 1 仕様

刈払機	
型式	AK-2610W
質量 (刈刃、肩掛バンド、飛散防護カバー、燃料は含んでおりません。)	5.4Kg
減速比	1.36
刈刃	チップソー(255mm×40P)
刈刃駆動軸回転方向 (ギアケース上から見る。)	反時計方向
外形寸法 全長×全幅×全高	178cm×63cm×37cm

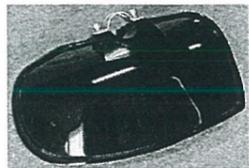
エンジン	
型式	D26CB
排気量	25.6cc
最高出力	0.74KW(1.0Ps)/7500rpm
使用燃料	混合ガソリン (混合比25:1 JASO FC級) 混合ガソリン (混合比50:1 JASO FD級)
使用潤滑油	JASO FC級以上
燃料タンク容量	0.6ℓ
キャブレタ	ダイヤフラム式 ロータリバルブ
点火方式	フライホイールマグネット
スパークプラグ	CHAMPION CJ6Y
始動方式	アシスト式リコイルスタータ

※上記の性能表は当社テスト値であり、保証値ではありません。  
使用環境によりその値は変化します。

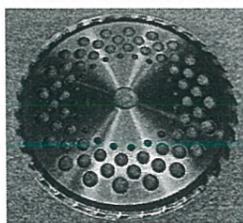
※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

※潤滑油混合ガソリンには必ずFC等級(JASO)以上をご使用ください。

## 2 梱包部品一覧



飛散防護カバー



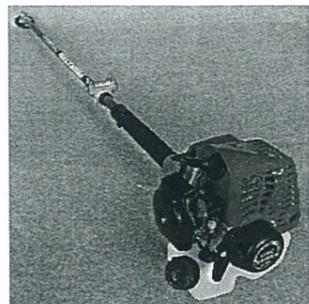
刈刃(チップソー)



取扱説明書(本書)



肩掛バンド



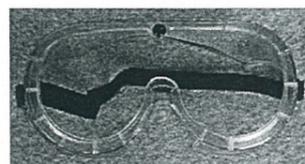
エンジン・メインパイプ 右ハンドル(スロットルレバー)



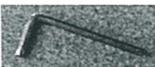
ソケットレンチ



左ハンドル



保護メガネ



六角レンチ×2 (4mm,5mm)



結束バンド×2

最初に、梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし、欠品または、破損などありましたら、製品名、型式、製造番号と共にお買い求めの販売店にお知らせください。保証書は、お客様が保障修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

## 8 保管



・燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばでは保管しないでください。火災の原因となります。

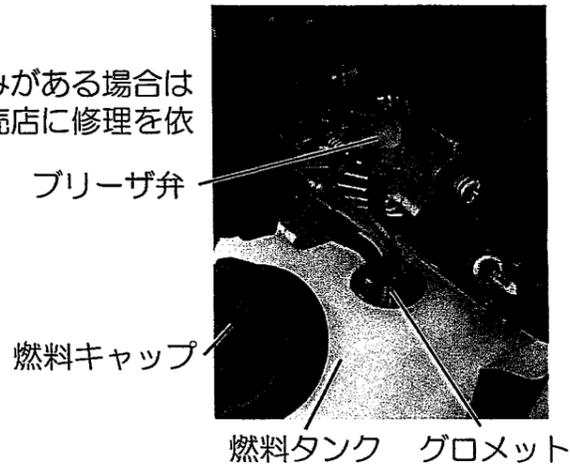
### 長期保管 (30日以上)

製品を長期間 (30日以上) にわたって保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

- ①燃料タンク内の燃料を完全に抜き取ります。
  - a, 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
  - b, プライマリポンプを数回押して、キャブレタ内の燃料も抜いてください。
  - c, エンジンを始動し、自然に停止するまで低速で運転してください。
- ②ストップスイッチを停止位置にしてください。
- ③製品が十分に冷えてから、外側に付いたグリス、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
- ④本書に定められた定期的な点検をしてください。
- ⑤スクリュー、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- ⑥スパークプラグを外し、スパークプラグ孔から、4~5滴の2サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
  - a, スパークプラグの取り付け穴の上にきれいな布を掛けてください。
  - b, リコイルスタータを数回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
  - c, リコイルスタータをゆっくり引き、ピストンを最も上の位置にしてください。
- ⑦スパークプラグを取り付けてください。(スパークプラグキャップは接続しないでください。)
- ⑧直射日光を避け、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

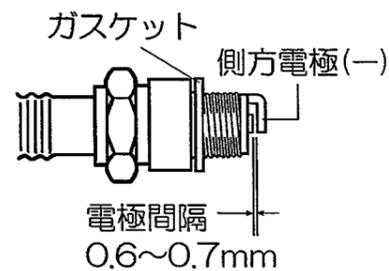
### 燃料供給部の点検

- 使用前に必ず確認してください。
- 燃料タンク周辺から燃料の漏れやにじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



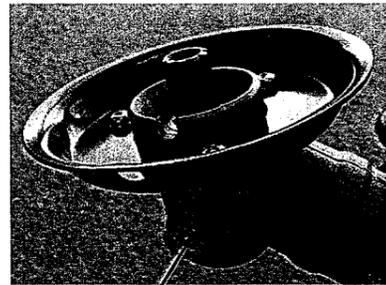
### スパークプラグの点検

- 50時間の運転を目安に、スパークプラグの点検清掃を行ってください。ワイヤブラシ等でカーボン堆積物を除去し、電極間隔を0.6~0.7mmに調整します。著しい汚れ、欠損がある場合は、スパークプラグを新品に交換してください。締め付けトルクは15~17N・m (150~170kgf・cm) です。指定スパークプラグは、CHAMPION CJ6Yもしくは、NGK BM7Aです。

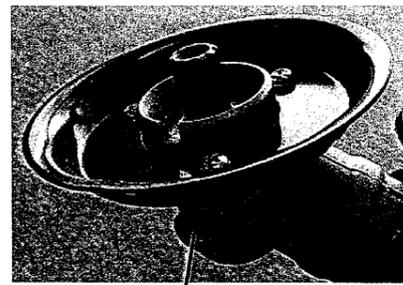


### ギヤケースのグリス注油

- 注油孔からボルトを外してください。
- 良質のリチウムマルチグリスを注油してください。この時、グリスを入れすぎないように注意してください。
- 注油後は、ボルトをしっかり締めつけてください。



注油孔ボルト



注油孔

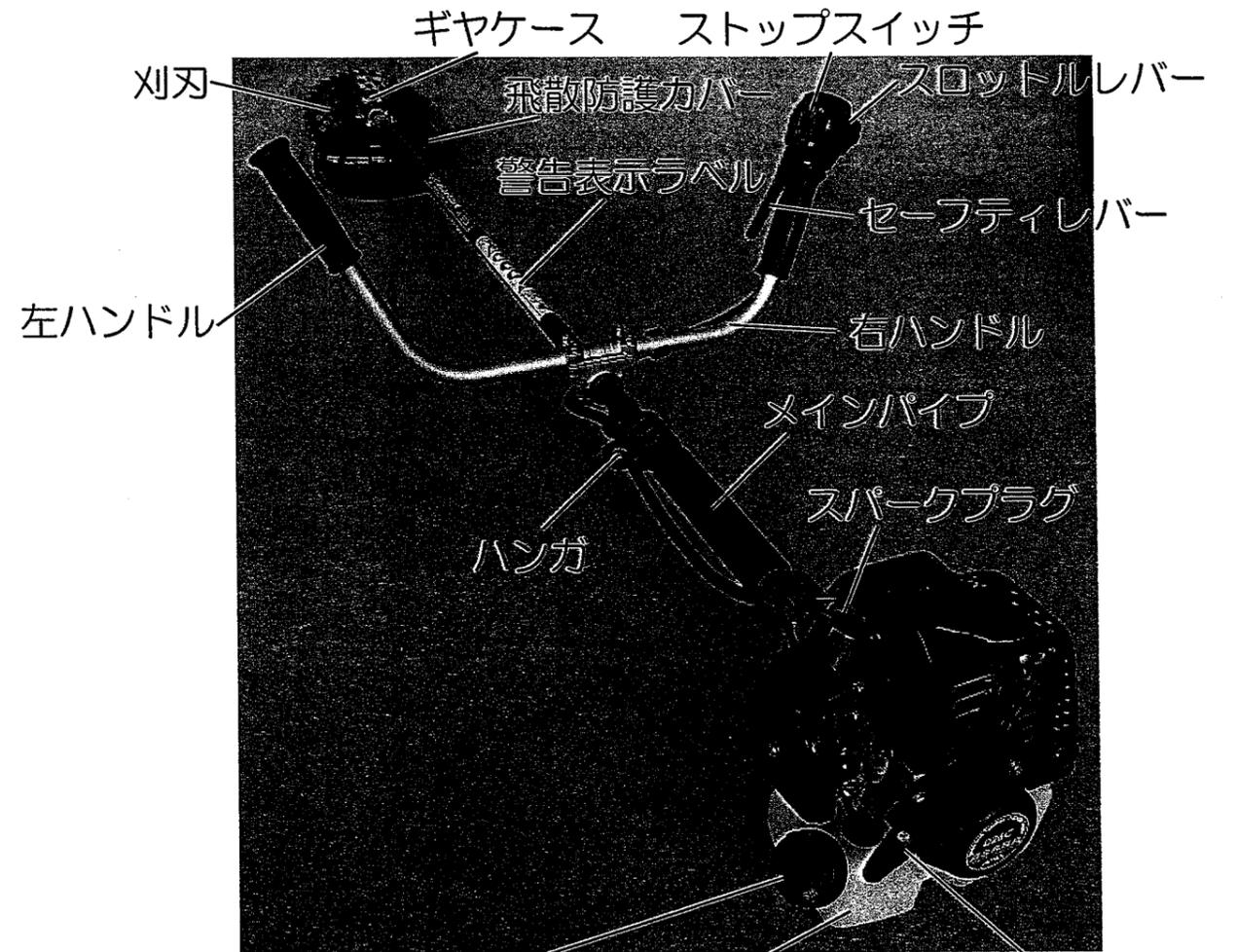
### 刈刃の確認

- 刈刃は純正部品を使用してください。
- 刈刃のチップ飛び、ひび割れ、欠けなどの異常がないか点検し、異常がある場合は刈刃を新品と交換してください。
- 刈刃が正しく取り付けられていることを確認してください。

### マフラの点検

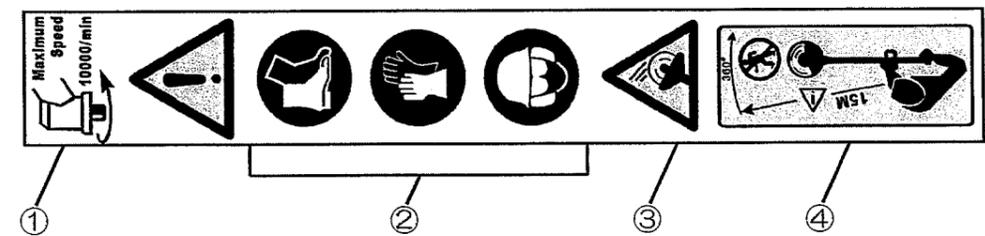
- マフラがカーボンなどで汚れているとエンジンの出力低下を引き起こすので、汚れている場合は、清掃してください。

### 3 各部の名称



### 警告表示ラベル

- 本書で説明している製品の各部の名称および警告表示ラベルを示しています。ご使用前に各部の名称およびラベルの意味を理解してください。
- ラベルが磨滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



- ①：ギヤケースの最高回転数は10000rpmです。
- ②：作業中は、保護具を着用すること。
- ③：飛散物に注意してください。
- ④：作業中は、15m以内に人、動物を近づけないこと。

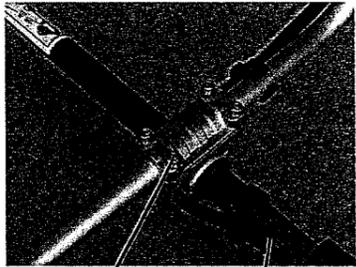
## 4 作業の準備



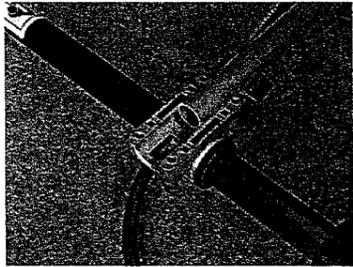
- 取扱説明書をよく読んで、正しく組み立ててください。誤って組み立てた製品を使用すると、事故や重傷を負う原因となります。
- ご自身で組み立てが困難な場合はお買い上げ店にご相談ください。

### 4-1 ハンドルの組み立て

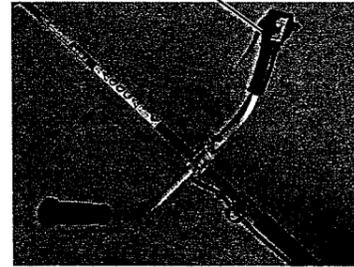
- ① 付属の六角レンチで、ハンドル固定具の4本のボルトを取り外してください。
- ② スロットルレバーの付いているハンドルを右手側にしてください。スロットルケーブルがハンドルの下を通り、ねじれていないことを確認してください。
- ③ ハンドル固定具の溝にハンドル先端を合わせてください。メインパイプとハンドルを操作しやすい角度にして、ハンドルが動かないようにハンドル固定具を4本のボルトで締め付けてください。
- ④ ハンドルが固定されていることを確認してください。
- ⑤ ハンドルコネクタとエンジンコネクタを接続します。



ボルト メインパイプ

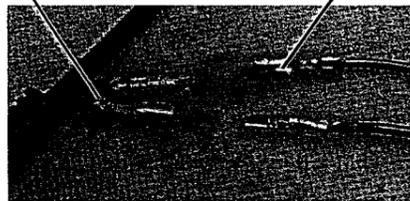


ハンドルコネクタ



スロットルレバー

エンジンコネクタ

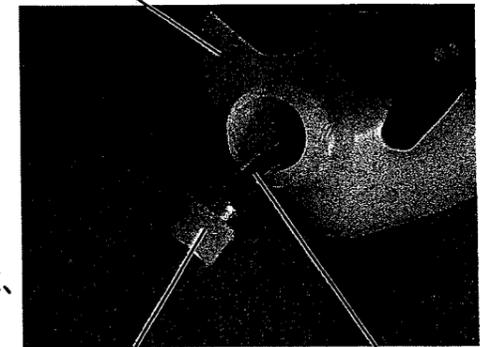


- 右ハンドルを回転させ、スロットルケーブルがねじれた状態で、ハンドルを組み立てないでください。スロットル機能不良の原因となり、事故や重傷を負う原因となります。

### 燃料タンク、燃料フィルタの清掃

- ① 燃料キャップを外してください。
- ② 針金などを使用して、燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取り出してください。
- ③ 燃料が劣化しているときや、水分やゴミが混入しているときは、燃料を交換し、燃料タンク内や燃料フィルタ、燃料パイプを洗浄してください。
- ④ 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっているときは、交換してください。
- ⑤ 燃料フィルタを燃料タンクに戻して、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
- ⑥ 燃料キャップを確実に締め付けてください。

燃料タンク



燃料フィルタ

燃料パイプ

### キャブレタの点検



危険

- 工場出荷時にキャブレタはエンジンの性能を最もよく引き出せるように設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの異常も考えられますので、キャブレタを調整してください。
  - エンジンが始動しない。
  - エンジンが停止する。
  - アイドリング（低速運転）時も刈刃が回っている。
- 調整ネジは締めすぎないでください。強く締めすぎるとキャブレタが破損します。

重要

- 本書で説明している調整を行ってもエンジンの調子が思わしくない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

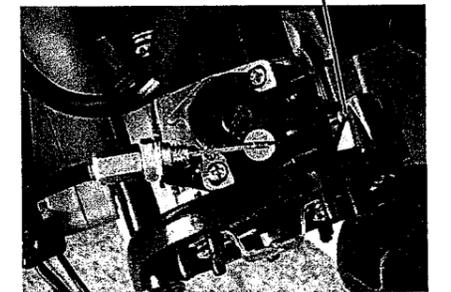
### 調整前の手順

- ① スロットルレバーを操作して遊びがあることを確認してください。
- ② エアクリーナを清掃または、交換して、エンジンを数分間運転してください。

### アイドル調整ネジ

- ① アイドリング（低速運転）の回転数は、キャブレタ本体のアイドル調整ネジを回して調整してください。
- ② アイドル調整ネジを時計回りに刈刃が回り始めるところまで回し、反時計回りに刈刃が止まるころまで回します。そこから反時計回りに1周回します。

アイドル調整ネジ



### 冷却風通路の清掃

重要

- 冷却風吸込み口やシリンダフィンの中にゴミが詰まるとエンジンが過熱し、故障の原因となります。

- ① シリンダフィンの中のゴミと汚れを取り除いてください。
- ② 冷却風の吸い込み口の周りに付いたゴミなどを取り除いてください。

## 7 点検・整備

### 定期点検・整備

項目	処置	使用前	1ヶ月毎
エアフィルタ	清掃 / 交換	○	
燃料フィルタ	点検 / 清掃 / 交換	○	
キャブレタ	調整 / 交換		●
スパークプラグ	点検 / 清掃 / 調整 / 交換		●*
冷却風通路	点検 / 清掃	○	
マフラ	清掃		●**
ギヤケース	グリス注油		●*
刈刃	点検 / 清掃	○	
燃料供給部	点検	○	
ネジ、ボルト、ナット	点検 / 締め付け / 交換	○	

### 重要

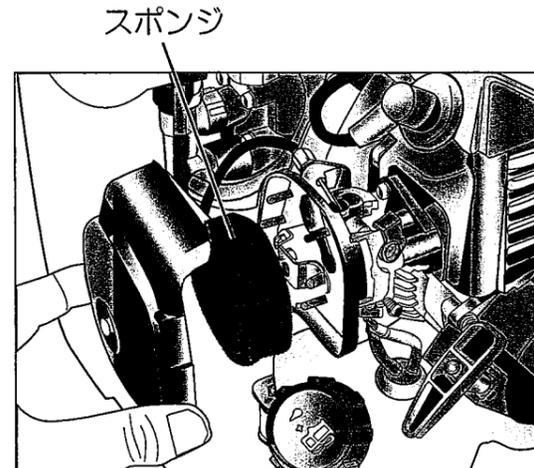
- 点検・整備は製品寿命に影響を及ぼします。指定の運転時間もしくはご使用期間ごとに点検・整備を行ってください。
- \* は、50時間運転毎あるいは1ヶ月経過毎のどちらか早い方で、
- \*\* は、100時間運転毎あるいは1ヶ月経過毎のどちらか早い方で点検・整備してください。
- ご自身で点検・整備や故障対策ができない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

### 警告

- 製品の点検・整備をするときは、エンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグやスパークプラグキャップをはずしてください。停止直後やスパークプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。

### エアクリーナの清掃

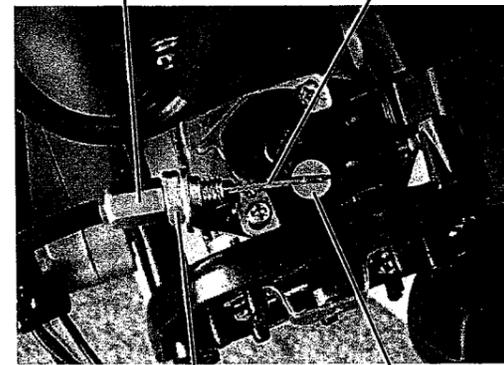
エアクリーナ内のスポンジが汚れていると、吸気が不安定となり、エンジンの性能が十分に発揮されません。時々、エアクリーナを外し、スポンジをガソリンまたは、洗油で洗浄し、固く絞ってから取り付けてください。



### 4-2 スロットルワイヤの接続

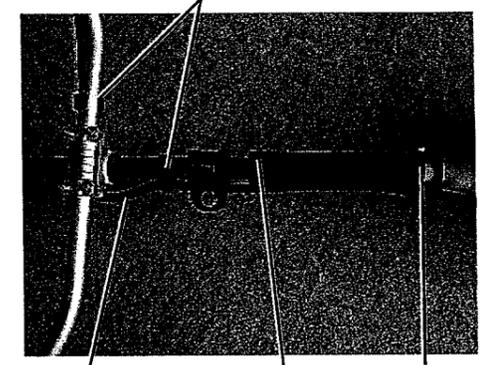
- ① スロットルワイヤの端子をキャブレタのワイヤ受金具に通してください。
- ② ワイヤの端子をスイベルの溝にはめ込んでください。
- ③ ワイヤ受金具の調整は不要です。
- ④ チューブをパイプクランプ・結束バンドを使用してメインパイプに固定してください。

ワイヤ受金具 スロットルワイヤ



ナット スイベル

パイプクランプ



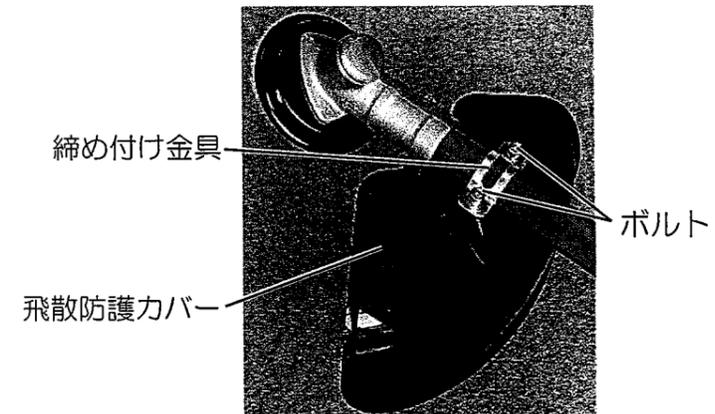
チューブ メインパイプ 結束バンド

### 重要

- スロットルワイヤを無理に曲げないでください。
- スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。(P.105-3「スロットルレバーの使い方」を参照)

### 4-3 飛散防護カバーの取り付け

- ① 締め付け金具でメインパイプをはさむように取り付けてください。
- ② 飛散防護カバーの位置を調整してから固定してください。

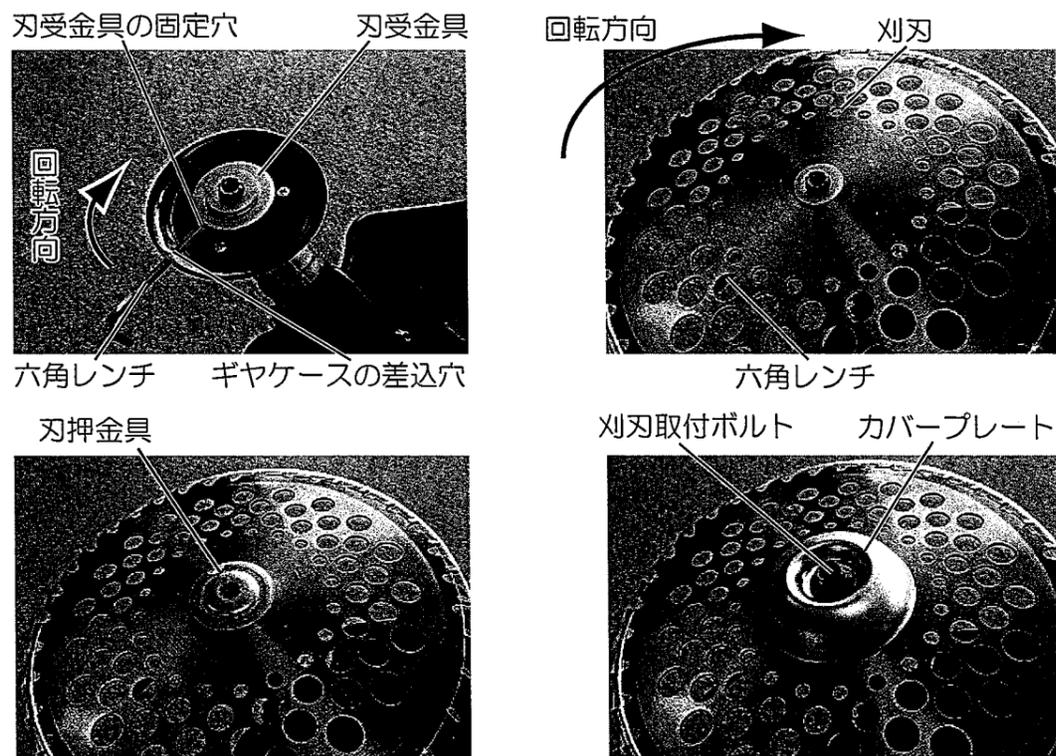


### 危険

- 事故や重傷を負う恐れがありますので、飛散防護カバーを取り外した状態で使用しないでください。

#### 4-4 刈刃の取り付け

- ①刃受金具の固定穴とギヤケースの差込穴を合わせて付属品の六角レンチを差し込み、軸が回らないように固定してください。
- ②付属のソケットレンチで刈刃取付ボルトを時計方向に回して刈刃取付ボルトとカバープレート、刃押金具をはずしてください。
- ③刈刃を回転方向に合わせて、刈刃→刃押金具→カバープレート→刈刃取付ボルトの順に取り付け、ソケットレンチで刈刃取付ボルトを反時計方向にしっかり締め付けてください。



**危険**

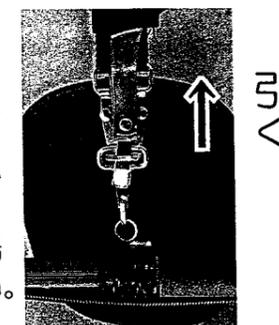
- ・刈刃取付ボルト、カバープレート、刃押金具は消耗品です。摩耗や変形がありますと刈刃取り付けが緩む恐れがありますので新品に交換してください。

**警告**

- ・刈刃を扱うときは、厚手の手袋を着用してください。
- ・刈刃は付属のソケットレンチを押さえながら、確実に締め付けてください。事故や重傷を負う原因となります。
- ・刈刃を締め付けるときに、付属のソケットレンチ以外のエア工具、電動工具などを使用したり、体重を掛けて締め付けたりしないでください。必要以上の締め付けにより、刈刃取付ボルトや刈刃駆動軸が破損して、事故や重傷を負う原因となります。
- ・刈刃は直径255mm以下の刈刃を使用してください。直径255mmよりも大きな刈刃は絶対に使用しないでください。本製品または刈刃の損傷および飛散により、事故や重大な人身事故を招く恐れがあります。

#### 肩掛バンドの装着

- ・付属の肩掛バンドを、フックが腰の右側にくるように着用してください。
- ・エンジンを始動し、肩掛バンドのフックを刈払機のハンガーに確実にかけてください。
- ・肩掛バンドの長さは、自然な姿勢で刈払機を持ったときに、肩掛バンドがたるまず刈刃が水平になるように調節してください。
- ・肩掛バンドには緊急離脱装置が付いています。火災など緊急の場合は緊急離脱つまみを上に引き、製品を身体から離してください。



#### 刈払作業

##### <作業前>

- ・肩掛バンド、飛散防護カバーなしで使用しないでください。
- ・刈刃は作業用途に合わせて適切な刈刃を使用してください。
- ・刈刃や刈刃固定金具類は純正部品を使用してください。

##### <作業中>

- ・エンジン始動後、スロットルレバー、セーフティレバーを操作すると、エンジンの回転速度が上がり、刈刃が回り始めます。作業に合わせて、回転速度を調節してください。
- ・刈刃は石や樹木、コンクリート、杭、支柱のような硬い障害物や地面とは接触しないようにしてください。
- ・ギヤケースを地面に接触させて作業すると、刈刃固定金具類が摩耗しやすくなります。摩耗したときは交換してください。
- ・メインパイプを腕で振り回さず腰の回転で刈刃を水平に右から左に振り、刈刃の左側で雑草を刈ってください。
- ・草が飛び散り、キックバックを起こしやすくなるので、往復刈りや大振りをしないでください。
- ・刈刃を左側に5~10°傾けて刈ると草が左側に寄るので作業しやすくなります。
- ・刈幅は1.5mくらいが適当です。
- ・緩やかな傾斜地では、等高線方向に作業してください。
- ・使用中、機械の調子が悪かったり、異常音が出たときは、直ちにエンジンを停止させ、使用を中止してください。そのまま使用していると事故の原因になります。
- ・エンジンの始動・停止時、作業を中断したり、移動したりするときは、スロットルレバーを低速の位置にしてください。
- ・製品の運転中および停止後しばらくの間は、シリンダカバー、マフラ、ギヤケースなどの高温部に触れないでください。

##### <作業後>

- ・刈刃はエンジン停止直後も惰性でしばらく回ります。完全に止まるまで刈刃に触れないでください。

## 6 刈払作業

危険

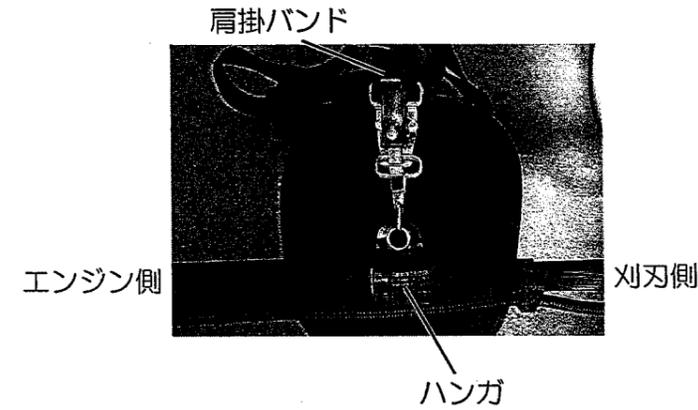
- 飛散防護カバーをずらしたり、取り外したりしないでください。刈刃からの飛散物による事故や重傷を負うことになります。
- 製品の中心から半径15mの範囲は危険区域です。作業中は次のことを守ってください。
  - 危険区域に人や動物を入らせない。
  - 危険区域に人や動物が入ったときは、エンジンを停止し、刈刃を停止させる。
  - 作業者に近づくときは、危険区域の外から小枝を投げるなどの合図をして作業者に知らせ、エンジンと刈刃の停止を確認する。
  - 二人以上で作業するときは、お互いに合図のしかたを決めて15m以上離れる。
- 刈刃からの飛散物や刈刃との接触により、失明や死亡事故を起こすことになります。

警告

- 作業前に、作業する場所にある刈刃で跳ね飛ばしそうな小石や空き缶、刈刃周辺にからまりそうなヒモや針金などは取り除いてください。異物を跳ね飛ばしたり、製品にからみついた針金などが跳ね返ったりして、事故や重傷を負う原因となります。
- 刈払作業では次のことを守ってください。
  - 刈刃が岩、立木、杭などの障害物に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから、刈刃と飛散防護カバーの損傷を点検してください。
  - ヒビの入った刈刃は使用しないでください。
  - 刈刃周辺に詰まった草を取り除くときはエンジンを停止させ、刈刃を停止させてください。
  - 飛散防護カバーが破損したら交換してください。
  - 刈刃用ボルトが摩耗したら交換してください。事故や重傷を負う原因となります。
- 作業中、マフラ周辺に草やゴミなどが付着したときは、直ちにエンジンを停止し、速やかに取り除いてください。火災の原因となります。
- 刈刃を膝より高く持ち上げないでください。膝より高く持ち上げると刈刃が顔に近くなり、刈刃からの飛散物により、事故や重傷を負う原因となります。

## 4-5 肩掛バンドの調整

- ①両手でハンドルを握ったときに、刈刃と飛散防護カバーが地上から数cmの高さで水平になるように肩掛バンドの長さやバンドの吊り位置を調整してください。
- ②肩掛バンドは写真のように刈払機本体が体の右側にくるように掛けてください。



## 4-6 燃料の準備

重要

- 燃料は、必ず潤滑油混合ガソリンを使用してください。
- 混合比は、自動車用無鉛ガソリン25に対して、FC等級(JASO)以上の2サイクルエンジン専用オイル1の割合で混合してください。エンジンの性能を十分に引き出すため、使い始めの20時間前後は、オイルを多めに入れて(ガソリン：オイル=20：1)慣らし運転を行ってください。
- 燃料の混合は、本体の燃料タンクで行わず、必ず別容器を用いてください。
- 2サイクルエンジン専用オイルは必ずFC等級(JASO)以上をご使用ください。FC級未満のオイルをご使用されますとエンジン本来の性能が発揮されない恐れがあります。

危険

- 火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
  - 燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
  - 燃料補給時は、火気に充分注意してください。
  - 高温部に燃料がかからないように補給してください。
  - 燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れしないでください。
  - 燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
  - 燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- 燃料を充填後、本機を傾けると燃料が漏れる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- 燃料を充填後、自動車などで運搬する場合は、燃料がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

## 5 エンジンの始動・停止



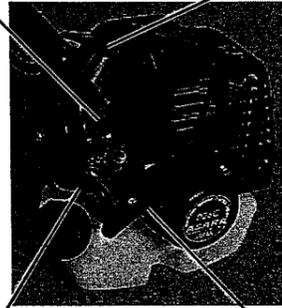
運転  
ストップスイッチ



停止



チョークレバー



チョークレバー スパークプラグ

プライマポンプ リコイルスタータ

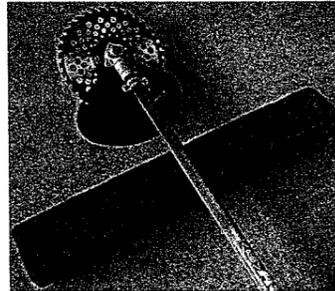
### 5-1 冷えたエンジンの始動

※製品を平坦な地面に置き、枕木などをして刈刃が地面や障害物に触れていないことを確認してください。

- ①ストップスイッチを『運転』の位置にしてください。
- ②キャブレタのプライマポンプを、指で4~5回押してキャブレタに燃料を十分に送り込ませてください。
- ③スロットルレバーを低速の位置にしてください。
- ④チョークレバーを『閉』の位置にしてください。
- ⑤周囲の安全を確認して、製品をしっかりと押さえ、リコイルスタータを数回引いてください。

※アシスト式リコイルの為、勢いよく引っ張る必要はありません。

- ⑥エンジンが始動したら、1~2分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転をしてください。暖機運転が終了し、スロットルレバーを低速回転側から高速回転側へ操作すると、チョークレバーは自動的に『全開』になります。



### 5-2 暖まっているエンジンの始動

運転停止直後に再始動するときは、チョークレバーを『全開』にして始動します。始動しない場合は、エンジンが冷えている場合の始動法を始めて行ってください。

#### 重要

- ・リコイルスタータのロープは、一杯に引ききらないでください。
- ・引いたロープを手離さないで、静かにもとに戻してください。

#### 警告

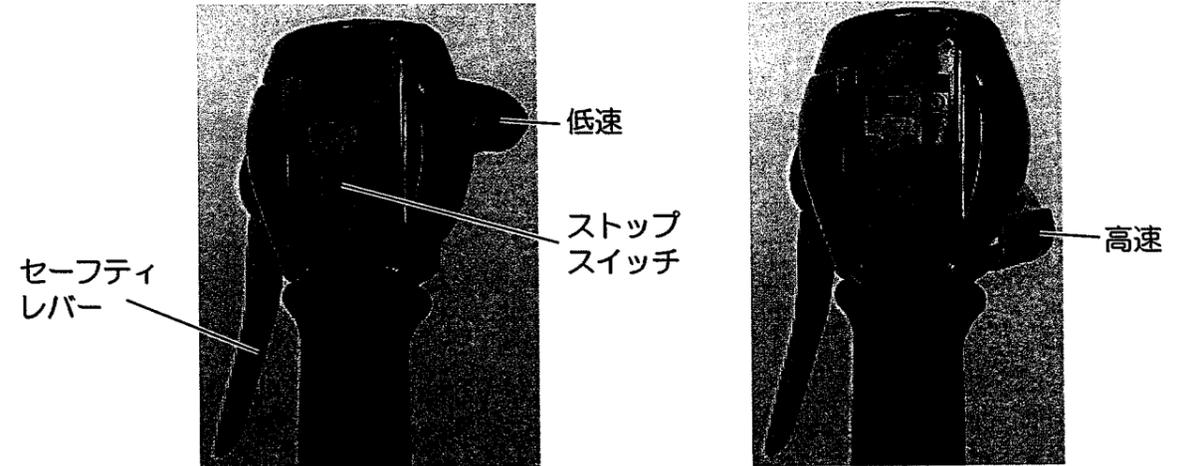
- ・エンジンを始動するときは、次のことを守ってください。
  - ・ボルトやナット類にゆるみがないことを確認する。
  - ・燃料が漏れていないか確認する。
  - ・製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く。
  - ・スロットルレバーが低速位置にあることを確認する。
  - ・製品をしっかりと押さええて始動する。
- 火災、事故や重傷を負う原因となります。

#### 警告

- ・エンジンが始動したら、異常振動・異常音が発生していないか確認してください。異常振動・異常音がある場合は直ちにエンジンを停止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。部品の脱落、飛散などの事故により、重傷を負う原因となります。
- ・エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。屋内など通気の悪い場所で製品を運転しないでください。排気ガスによる中毒事故の原因となります。
- ・製品の運転中、スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部に触れないでください。運転中に高電圧部に触れると感電します。
- ・製品の運転中および停止後しばらくの間は、シリンダカバー、マフラ、ギャケースなどの高温部に触れないでください。高温部に触れると火傷します。
- ・エンジンの始動時、スロットルレバーが低速の位置にあっても刈刃が回転するときは、キャブレタを調整してください。（P.14「キャブレタの点検」を参照）回転する刈刃でケガをする恐れがあります。

### 5-3 スロットルレバーの使い方

- ①セーフティレバーを握りながらスロットルレバーを徐々に高速側に移動させるとエンジンの回転が上がり、刈刃が回り始めます。作業に適した回転速度が得られる位置にスロットルレバーをセットして作業してください。
- ②セーフティレバーを離すとアイドリング状態になります。もう一度セーフティレバーを握ればまた設定した回転に上がります。



#### 注意

- ・エンジンの始動・停止時、作業を中断したり、移動するときは、スロットルレバーを低速の位置にしてください。ケガをする恐れがあります。

### 5-4 エンジンの停止

- ①スロットルレバーを低速の位置にし、エンジンをアイドリング状態にしてください。
- ②ストップスイッチを停止の位置にしてください。
- ③緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。